



第2号

発行所 京都府乙訓郡向日町 大字向日小字南山三番地 向日町役場 (電話向日町 18.218番) 印刷所 京都市東山区本町二丁目 富浪文華堂 電話紙 3459番

向日町の地史と變遷

一、地史

約二億年前、東亞大陸の浅い海で積み上げられた岩石が、やがて地上に出て日本最古の秩父古生層となった。

二、変遷

年にも満たない。其頃上野野、鷲冠井、白井の東は浅い湖であつたろうし、やがて陸上へ上つてからも桂川は度々流路を変えたこと、思われ

のである。千三百余年前大化年間天智天皇が班田收授の法を定めて、土地を人民に分け与えられた時、先づ六町四方の一里毎に区劃し、一里を一町四方の坪三十六坪に分け、一坪を十二に分割して班田の単位とされた。今各地に一ノ坪、二ノ坪、十(一)坪、十(二)坪、十(三)坪等の地名があるのはその名残であつて、里名には鷲冠(森本)、弓形羽里、蝦手里(鷲冠井)、金手里、櫻小田里、小切里、河原田里(上野野)等が知ら

の地から我が向日町の地に都をお移しになつた、当時この地方を長岡村と呼んでゐた。(今の長岡町ではない)都の四方の境ははつきりはわからな

承久の乱が起るや、六人部氏を中心とした町民が官軍に味方し、敗れるや、敵の大將三浦義村が寺戸方面に進出して来て町民を鎮圧した。

孝院院 一七〇 幕府旗本(松枝調三郎) 五六一 向日神社 二七〇 相国寺 一〇〇 万寿寺 二二〇 妙蓮寺 一〇〇 西土川(森本) 一〇〇 綾小路家 一〇〇 唐橋家 五五〇 冷泉家 一〇〇 山科家 一〇〇 川遊家 三五〇 白井(森本) 一〇〇 藤谷家 一〇〇 土山殿河守 一〇〇 大膳内侍 一〇〇 伏見宮 五〇〇 五辻家 五〇〇 東坊城家 二二五 土御門家 五〇〇 藤田家 九〇〇 甘藷家 一四〇 甘藷寺家 一〇五 磯崎家 一〇五 五条家 五〇〇 藤原家 五〇〇 小堀代官所(支) 一五〇 小式部内侍 五〇〇 上野野

町村合併のはなし

最近新聞では放送等によつて町村合併に関する種々の報が行われていて、この問題については本町住民の方々も相関心をお持ちになつて

久的に向上することを期するものとし、これから述べる次の各項の要領でこれを行われることになつております。

一、町村の標準人口は大体八、〇〇〇人以上とされ、行政上向上を促進する見地から地勢人口密度、経済事情、都市計画、地方の総合開発計画、その他具体的な事情に照らし、できるだけ規模を大きくする様に適切な計画を作成すること

二、町村の合併は単に個々の町村の個別的な利害を考慮するのみでなく、全町村について広く、全町村に於いては、町村合併に際しては、町村合併に未収の債権を徴収し未払の債務を償済する等、新町村に引継ぐべき事務を誠実に処理し、新町村の発足に支障のないようにしておくと、なお町村合併を見送つて不相応な事業計画を実施し債務を残すような事は厳に慎むべきこと

向日町全景 (競輪場より撮影)



約十万余年前頃又断層運動が起つて小細川の線と物集女、向日区を結ぶ線が陥没し、長岡丘陵のみが残つたが、やがて、大雨の一部の土が流されて其の土が物集女、寺戸、梅ノ木、鷲冠井、上野野等に積つた。

東森本や、鉄道東の田圃が湖の底から上つて来たのはそれより遅く上つてから今までまだ一万年

式部野、侍従野は小字倉の町に、主水町は小字門戸の西方に、神祇官は小字沢田にあつたのだから

式部野、侍従野は小字倉の町に、主水町は小字門戸の西方に、神祇官は小字沢田にあつたのだから

式部野、侍従野は小字倉の町に、主水町は小字門戸の西方に、神祇官は小字沢田にあつたのだから

式部野、侍従野は小字倉の町に、主水町は小字門戸の西方に、神祇官は小字沢田にあつたのだから

式部野、侍従野は小字倉の町に、主水町は小字門戸の西方に、神祇官は小字沢田にあつたのだから

式部野、侍従野は小字倉の町に、主水町は小字門戸の西方に、神祇官は小字沢田にあつたのだから

式部野、侍従野は小字倉の町に、主水町は小字門戸の西方に、神祇官は小字沢田にあつたのだから

式部野、侍従野は小字倉の町に、主水町は小字門戸の西方に、神祇官は小字沢田にあつたのだから